

令和7年度第1回弘前市廃棄物減量等推進審議会 発言要旨

- 日 時 令和7年5月28日（水）10：00～11：40
- 場 所 弘前市役所市民防災館3階防災会議室
- 出席者 樋口会長、阿保（鉄）委員、阿保（勘）委員、安東委員、飯田委員、石田委員、太田委員、加藤委員、佐藤委員、神委員、畑山委員、三橋委員
- 欠席者 石塚委員
- 事務局 佐藤市民生活部長、葛西環境課長、鼻和課長補佐、三上課長補佐兼町田事業所長、清藤ゼロカーボンシティ推進係長、竹谷主幹兼廃棄物対策係長、齋藤主査
- 内 容

1 開会（進行：鼻和環境課長補佐）

2 市長挨拶

3 諮問書の手交

4 会議（進行：樋口会長）

(1)【資料1】一般廃棄物処理基本計画の策定について

⇒事務局から説明を行った。

《質問・意見等》

- ・基本計画の策定について細かくやることが決まっているように見えるが、プロポーザルによって事業者を選定する理由は。

→特に脱炭素の施策については、事業者から他の自治体の事例や国や県の動向を踏まえた施策提案をしていただき、最適な事業者と契約を結び、計画案を作成するため、公募型プロポーザルを実施するもの。

(2)【資料2】ごみ処理の状況について

⇒事務局から説明を行った。

《質問・意見等》

- ・実質リサイクル率について、民間回収分を算出する基準は。

→県がスーパーやリサイクル拠点での民間回収分を調査しており、市内の民間回収分をゴミ排出量から案分により推計し、弘前市分を算出している。

- ・一人一日あたりの事業系ごみの排出量で、令和4年度に西目屋村の排出量が多い理由について知見があれば教えてほしい。

→水害で大量の流木が西目屋のダムに流れつき、その処分を令和4年度に行ったことで、一時的に排出量が多くなったと聞いている。

- ・一人一日あたりの家庭系ごみ種別排出量のうち、粗大ごみが同じ人口規模の自治体と比較して、弘前市が多い状況だが、過去も同様の傾向か。粗大ごみを減らすことでリサイクル率が向上するのでは。

→粗大ごみは各自治体で粗大ごみとして扱うサイズが異なるため、全国一律で比較することが難しいものの、粗大ごみを減らすことはごみの減量化・資源化に繋がるため、市として力を入れていくべきものと捉えている。

- ・実質リサイクル率は目標より下回っているが、行政回収と民間回収のどちらが目標を下回っているのか。

→実質リサイクル率については、県で公表している数値から案分・上乘せして推計したものであり、民間回収の数字が適正に反映されているかの確認ができていない。実質リサイクル率を目標とすべきかを含めて検討していく必要がある。

- ・実質リサイクル率に関して、民間回収が増えれば行政回収が減ることが考えられるが、回収品目で民間回収が得意でない分野を行政がやるという住み分けができたら良い。

- ・民間回収でポイント還元など発信力があるものは利用されているので、行政回収に関するアナウンスの強化が必要ではないか。民間の引き取りや不用品回収のマッチングができれば、リサイクル率が向上するのでは。

→回収業者に関する問い合わせがあればご案内している状況。新規開業する方向けのアナウンスなどを検討していく。

- ・タバスケに関連して、フードロス削減のために持ち帰りが増えると、容器に係る経費が増える状況。石油系の容器ではなく、紙の容器を使用した場合に補助が出るなどの支援を検討してはどうか。

→タバスケを始める際に共通の持ち帰り容器についても検討したが、コスト面で導入に至らなかった。ドギーバックやモッテコによる持ち帰りの促進などを他の自治体では導入している例もあるため、今後施策を検討したい。

- ・家庭ごみ指定袋の導入について、県内で導入していないのが、3自治体（弘前市、西目屋村、階上町）であるが、現時点での状況を教えて欲しい。

→他の自治体の状況については把握していないが、弘前市としては現時点では導入する方針はない。ただし、次期基本計画については、弘前市の現状を踏まえて素案を作っていくものであり、審議会でのご意見を踏まえて策定していくこととしている。

- ・他の自治体から市に対して指定袋導入の要望などはないか。

→現時点ではない。

(3)【資料3】令和6年度廃棄物施策の実施状況について

⇒事務局から説明を行った。

《質問・意見等》

- ・来年度からのプラスチック資源一括回収に向けて、令和6年4月からの危険ごみ・令和7年4月からの有害ごみの分別収集において、きちんと分別されているのか現状を教えて欲しい。

→大きな混乱もなく、分別がされないことによって大量に集積所に残されるというトラ

ブルもない状況。

- ・事業系ごみ適正排出指導の件数が増加しているが、集積所に出されているごみの種類や地域特性などについて教えて欲しい。
- 市内に事業所がある事業者を順次回っているもので、集積所に出している事業者を特定して指導するものではない。事業系ごみを集積所に出している例としては、粗大ごみを大量に出していたケースがあり、指導したことがあったが、大掛かりに事業系ごみを出しているケースは近年減少している。事業系ごみの不適正排出が判明した場合には、指導を行っている。
- ・「電動式生ごみ処理器の貸与」と「ひろさきリユース促進掲示板」について、昨年度の利用者が0に近い数字となっており、見直す必要があるのではないか。
- 「ひろさきリユース促進掲示板」については、令和7年度から廃止することとし、新たなリユースの仕組みを検討しているところ。「電動式生ごみ処理器の貸与」についても需要がないようであれば廃止を検討していく。
- ・古紙回収ステーション・行政回収・再生資源回収運動・オフィス町内会については、古紙回収量が減少傾向にある。一生懸命ではないとの受け止め方ではなく、DXによるペーパーレス化が図られたことにより、雑誌・雑紙の使用が減少したとの見方ができる。オフィス町内会のPRは継続して行って欲しい。
- ・オフィス町内会の名称がイメージしにくいという意見があるため、名称の変更を検討してはどうか。
- ・「ひろさきリユース促進掲示板」についてSNSやアプリとの連動を検討してはどうか。
- 検討の余地があるが、大手フリマサイトに負けてしまう部分があるため、より市内で需要と供給が成り立つもの（例えば子供服など）に特化したリユース促進事業を検討していく予定。

5 課長挨拶

6 閉会（進行：鼻和課長補佐）

○ 資料

- ・【資料1】一般廃棄物処理基本計画の策定について
- ・【資料2】ごみ処理の状況について
- ・【資料3】令和6年度の廃棄物施策の実施状況について

○ 公開・非公開の区分…「公開」